

永田 泰史(産業医科大学 循環器内科)

【留学先】Massachusetts General Hospital / Harvard Medical School

【テーマ】僧帽弁複合体の adaptation (組織延長) が左室形態および機能に及ぼす影響について

【経過報告書】

2018年6月より Massachusetts General Hospital (MGH) の心エコーラボに留学して3ヶ月が経ちました。当院はアメリカ東海岸のマサチューセッツ州ボストン市にあり、住まいは Arlington という職場から公共交通機関で約 50 分の地域にあります。職場からはやや離れていますが、近くに池や公園が多くあり、小さい子どものいる家族にとって大変良いところです。

私の指導者である Levine 先生は僧帽弁疾患の大家であり、特に虚血性僧帽弁閉鎖不全症に関してはこれまでに多くの研究結果を報告しています。その内容は画像による形態的な評価だけでなく、組織病態生理、分子生物学におよび、病態生理の解明と新たな治療法の開発をゴールに研究を行っています。私もこの流れにのっとり、僧帽弁 adaptation、左室リモデリングに対する遺伝子治療の効果についての研究に参加していますが、これまで組織学や分子生物学に深く関わっていませんでしたので、これらの内容を理解するのに勉強の日々です。私の所属するラボには日本人はおろか同じ立場のポスドクもおらず、ほとんどが手探りの状態から動き出しましたが、最近になりようやく職場の環境にも慣れつつあります。

仕事以外では、1ヶ月前から家族も合流し、生活にも慣れてきた頃です。長女が Kindergarten に通い始めましたが、すでに英語の発音は Native っぽくてうらやましく感じています。

最後になりましたが、留学生活をご支援して頂きます貴学会ならびに関係者の方々に心より感謝申し上げます。留学が実りのあるものになるように精進していきたいと思っております。